

備 前 市 施 策 評 価 シ ー ト

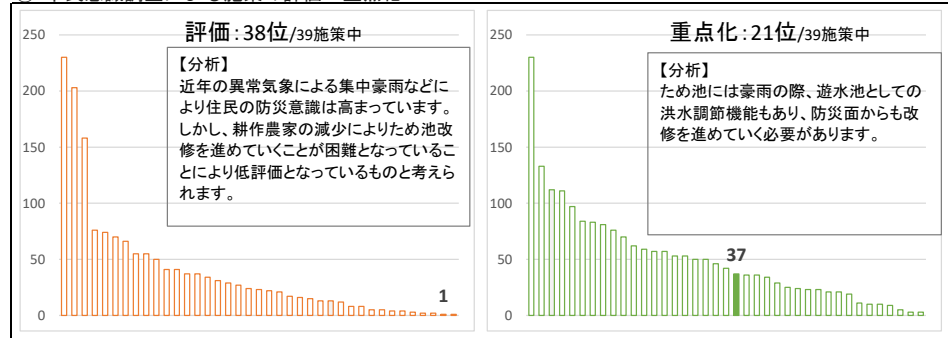
【令和2年度作成】

施策名 (小項目)	ため池・治山対策の推進	決算書 P140-147	(款)6 農林水産業費 (項)1 農業費(目)農地費 (項)2 林業費(目)林業振興費
コード	04-05-18	作成者	建設課長 淵本 安志 (tel 64-1833)
この施策の アピール ポイント	ため池及び治山事業の整備推進を図り、被害の未然防止と地域の安全性を高める。		
この施策の 令和元年度の 施政方針	ため池・治山対策の推進につきましては、災害の未然防止を図るため、国、県とも連携し整備を進め防災機能の向上を図ってまいります。ため池につきましては、引き続き防災重点ため池のハザードマップを作成するとともに、県事業による蕃山地区の長谷上池改修を進めてまいります。また、治山対策につきましても、引き続き浜山地区を県事業により整備してまいります。		

<備前市総合計画の内容から記載する>

① 政策の体系	基本構想(大項目)	土台となる政策「安全・安心」
	基本計画(中項目)	安全に暮らせるまち
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	地域住民の安全・安心のため、ため池の管理、改修を行い防災機能の強化に努める。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	本市のため池は、かんがい用として市内各所に345箇所ありますが、耕作農家の減少により受益者の経済的負担が増大することから、改修を進めていくことが困難になっています。ため池には豪雨の際、遊水池としての洪水調節機能もあり、防災面からも改修を進めていく必要があります。また、本市の面積の約80%を占めている山林については、荒廃山地が見受けられますが、近年、県内でも多発するゲリラ豪雨被害の復旧が優先され、県が実施する荒廃林地の復旧や予防治山事業の整備が進んでいないのが現状です。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> ため池の改修 治山対策 森林の保全 林道の保全 	

⑤ 市民意識調査による施策の評価・重点化



⑥ 施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H29	H30	R1		R3	R5
ため池改修数	目標	箇所 1.0	1.0	1.0	平成28年度をゼロとして6年後3箇所を目標に改修する。(目標値は累積数)	R3	1
	実績	箇所 0.0	0.0	0.0		R5	2
	達成率	% 0.0	0.0	0.0		-	-
	ベンチマーク						
治山対策箇所数	目標	箇所 1.0	1.0	1.0	平成28年度をゼロとして6年後2箇所を目標に改修する。(目標値は累積数)	R3	1
	実績	箇所 0.0	0.0	1.0		R5	2
	達成率	% 0.0	0.0	100.0		-	-
	ベンチマーク						
ため池対策数(余水吐切下)	目標	箇所 3.0	3.0	3.0	平成28年度をゼロとして6年後10箇所を目標に改修する。(目標値は累積数)	R3	8
	実績	箇所 0.0	3.0	5.0		R5	10
	達成率	% 0.0	100.0	166.7		-	-
	ベンチマーク						
参考指標③	目標						
	実績						
	達成率						
	ベンチマーク						

⑦ 目標達成に必要な新規事業(施策構成事務事業以外の事業)及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
備前市	小規模ため池補強事業	日本政策金融公庫から融資を受け実施する事業で元利償還に対し岡山県より50%の補助がある。
岡山県	中山間地域総合整備事業	農業生産基盤、農村生活環境基盤を有利な条件で総合的な整備が可能。
岡山県	農村地域防災減災事業	農村地域に対する防災効果を目的に事業が行われ、有利な条件で整備が可能。

⑧ 施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断	理由(なぜ、そのランクと評価したのか)
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	4	指標としている改修、対策箇所数は施策の主たる目的である、地域住民の安全安心、農業用水の確保を図る上で妥当である。	
2 <事業構成の妥当性> 手段は最適か?	4	施策の主たる目的である、地域住民の安全安心、農業用水の確保を図る上でため池の改修と対策、治山対策は妥当である。	
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	4	ため池改修は受益者の経済的負担が必要であること、余水吐の切り下げは貯水量を減らすことへの理解が必要なため調整に時間を要する。又、治山対策については、岡山県と協議しながら進めていく必要があるが、中長期目標の達成はできると見込んでいる。	
進行年度(R2年度)の取組内容 (課題解決状況)		改修の必要性があるため池について、地元関係者と協議を行い、受益者負担金の承諾を得られたため池については県へ要望していきます。受益者負担金の調整のつかない箇所については、余水吐の切り下げをおこない水位を下げる協議をおこなっていきます。又、併せてハザードマップの作成をおこない地域への周知をおこないます。	
翌年度(R3年度)の取組目標		改修の必要のあるため池については、地元関係者と協議をおこない、受益者負担金の承諾を得られたため池については県へ要望していきます。受益者負担金の調整のつかない箇所については、余水吐の切り下げをおこない水位を下げる協議をおこなっていきます。又、利用されていないため池については、廃止に向けた協議を進めていきます。	
二次評価者コメント		ため池は、貯水機能も兼ね備えており、防災上からも重要な役割をはたしている施設です。まず、防災重点ため池からハザードマップを作成し、地区住民への周知に努めてください。また、耕作者が減り、維持管理されていない池が増えてくることが予想されるため、改修とあわせて余水吐の切り下げ、廃止等も視野に入れ、対策をすすめてください。	基本施策への 貢献度 4 やや高い